神詠製歌考

四

和書門
類 八六二一號
函 九三
架 五
冊 六

内閣文庫
和書
類 八六二一號
冊 六
函 二〇一
架 西

内閣文庫
番號 和 8621
冊數 6 (4)
函號 201 72

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

大長谷若建命代

雄略天皇也 大長谷朝倉宮治天下也 若子宿禰命之御子也

初大戸坐日下之時自日下之直越道幸河内中略是以還上坐於宮之時行立其山之坂上歌曰

宮内庁書陵部

国立公文書館 National Archives of Japan

久佐加毎能。日下色也日下いと大和

詩知能夜麻登。こちの山

多々美詩母。物部上てる

幣具理能夜麻能詩知碁知能夜麻能賀比尓。

こちの山ぞ雑の山おもしろき山なるて。こちこち用ひ方よ色ひろ一ひろ一ひろ陸ろをる用也。玉信布氣よ幸くいろ山の峡ハ峡也来合の約まて山と山と来合つるぞ也。

多知祁加由流波毘呂久麻加斯。豆巻の蔓くま想ひくまのるを也

母登尓波。ぞよ也

伊久美陀気流波斐。いハつ神ひまて紐竹生也。

須恵幣

尓波。来色まつ也

多斯美陀気流波斐。たしたけハ也領紐也竹也。

宮も宮也。用し竹の上知なるをいつこ。たしこと用をこそ証なり。たしたけハ生なり。

伊久美陀気。ぞよいろ

伊久美波泥受。庭紐ハ不寝也氏自をいと出ぬいむとそ上の十三ハ序也妹とハ紐不寝也。

多斯美陀気多斯美陀気流波斐。

いくこ竹の如くい紐ハぬす。又たしこ竹のぬくい。ぞよ領て取りとり。ねすと。たる義を上の句よ続て歌人の色

能知母久美泥年。後も紐庭也

豆麻阿波礼。其思事懐也思事ハ大后也

曽能波母比

亦一時天皇遊行到於美和
河邊（之時河）有洗衣童女其容姿甚
麗天皇問其童女汝者誰子
答白已名謂引田部赤猪子
仐令詔者汝不嫁夫今將喚
而還坐於宮故其赤猪子仰
待天皇之命既經八十歲於

是赤猪子以為望命之間已
經多年姿體瘦萎更無所恃
然非顯待情不忍於悒而令
持百取之机代物參出貢獻
然天皇既忘先所命之事問
其赤猪子曰汝者誰老女何
由以參來仐赤猪子答白其

年其月被天皇之命仰大命
至于今日經八十歳今容姿
既耆更無所恃然顕白已志
以爽出耳於是天皇大驚吾
既忘先事然汝守志待命徒
過盛年是甚愛悲心裏欲婚
憚其極先不得成婚而賜御

歌其歌曰

美母呂能 伊都加斯賀母登加斯賀母登 由乃斯伎加母

加志波良袁登賣

又歌曰

比氣多能和加久流須婆良。引田の某なるすなやどるなり

斯母能。花咲てまものせねて
むものをとこそまいしなり
母花咲てもまて忘れ
なりしを悔しのつるなり

斯母能和加久閇介。若くこ方して先まよ
なるとしるなり。尋泥豆麻

波伊介祁流加

介赤揺子之泣涙悉濕其所服
之丹指袖答其大御歌而歌曰

美母呂介。郝久夜多麻加岐都岐阿麻
斯。三位は泰敬端位泰敬金也三位はいつれ
ますれの如く天皇をいつき金りと云義也多介加
母余良年。誰とも寄むせ天皇の命をいつき金り
ヒハ好く若くしれい法なり寄むも勢る也
加微能美夜比登。弥の宮人也尚牧子也
を沙よ伝なりの義也

又歌曰

久佐迦延能。地名草香江也伊理延能波知須波
邪婆知須。入江の蓮也微能佐加理毘登登

母志岐呂加母。

天皇幸行吉野宮之時吉野川之濱有童女其形姿美麗故婚是童女而還坐於宮後更亦幸行吉野之時留其女之所遇故其處立大御呉床

而坐其呉床彈御琴令舞倭其嬢子之好儛其嬢子答因其嬢子之好儛作御歌其歌曰

阿具良韋能（呉床座也）加微能美豆母知（神の御手物琴なり也天皇御手を神なり自作なり）比久詩登余（彈琴也）麻比須流袁美那（登詩余母加母）

儛する女を也。せるもの也。
ものいふ所の民部情所也

即幸阿岐豆野而御獵之時天
皇坐御呉床尓蜻咋御腕即蜻
蛉来咋其蜻而飛放是作御歌
其歌曰
美延斯怒能袁年漏賀多気尓志斯
布須登（三吉能能小玉ら御ょ狩伏とゆ小玉ら狩ハ）多礼曽意富麻
幣尓麻袁須（能ら火ゆよ白ゆまをとす色まをゆらを仰めて）夜須美

斯志咏賀流冨岐美能斯志麻枳登（八倍領我）
（火戸の狩作ら）阿具良尓伊麻志（呉床ょ坐ら）斯漏多閑
能（物輝白物ら）蘇豆岐蘇邪布（袖茅伏ら）多古年良
尓（脇七能まふた くふらとも）阿年加岐枳岐曽能阿年袁
（蜻蛉著き蜻を）阿岐豆波夜具比（蜻蛉早咋也寸と八上の みまよ三ゆ乎を咋ら）
（宮ゆ）加久能碁登那尓流波年登（如此ゆ居ゆ也）蘇
良美枳（物輝也ゆ）（ま稲あら）夜麻登能久尓袁阿岐

豆志麻登布

日本紀を秋つ洲とも云ふ也かく人能泰る
より紫の句にて豕となしたつる也 秋津
洲の名ハすくも世すゑになる事を情欲の悩みつけしを賞て海々の
に居るあきつハ秋つ倭の名にも居るく秋津を秋つ洲とも云と
たゝむれの名也 此ゆゑにより秋津洲と云名と心得るハ偏る也
此ゆゑ書紀にハやまとのをもろのかけまちしとふすとこれらのこと
おほまてハまとすおほきにいそこたときかけて たまきのあく
らまたし志川まきのあしてまたし志まつとことういまセハさ
猪 おまつとこのたゝせハたくふしまあむらきつきつそのおもむきをあきつ
をやくしをふ遠出ともおほきをまゝまつふなのおもむきあきつしま
やまとのえすの名も倭まにるるく文やまて洲る也史の中ま
しつまきのしつハ蜻めまきまく志つと云ともまて據ると云義ま
ハあすま蜻め捨しと云義まて珠玉を深く沈めるを也 さとの（さし）
ハ蜂得まて猪の蜂く猪と云義也是もあきつもやくふひとこハ上

の名字のまゝ也 たとへ到しもより紫る句にて豕となしたつる 葡萄紫も
大に及ぶハ仕まつらふ 洪々瓶を比せす掛し生む也 秋津を 秋津
洲 倭ともふ たゝれ此名前
とふの 詞を写て やまと押への名

又一時天皇登幸葛城之山上尓
大猪出即天皇以鳴鏑射其猪之時
其猪怒而宇多岐依来故天皇畏
其宇多岐登坐榛上尓歌曰
夜須美斯志和賀意富岐美能阿蘇

婆志斯。あそいしこと云々。俗はいうまいしなり。

新しいを云々。

志斯能夜美斯志能 牧の原牧のやみ

宇多岐加斯古美。うたきかはせとちなみ

といふる原なり。牧の原牧のやみ。人を向しるさまやうこころも恐也。和賀尓宣能煩理斯

我逃をりしや。阿理袁能波理能紀能延陀 ありをハ荒〻

せれしを(り)と仰あくありをと云て荒丘の樹の木の枝ハ著

紀よりありをのうへのたりをとあてあるをとして舎人らうも

あせをの

ゆをもる。

又天皇婚丸迩之佐都紀臣之女

袁杼比賣幸行于春日之時媛女

逢道即見幸行而逃隠岡邊故伝

御歌其御歌曰

土衣登袁賣能伊加久流袁加袁 女女の隠るる

冠 加那須岐母 毛也 伊本知母賀母 五百子も

須岐婆奴流母能 須ハ女 毛也 須五百子もあれ女女の隠れ

し号のおそれてもの
拙とたれて在るか

天皇坐長谷之百枝槻下為豊
樂之時伊勢國之三重婇指挙
大御盞以獻尒其百枝槻葉落
浮於大御盞其婇不知落葉浮
於盞猶獻大御酒天皇看行其
浮盞之葉打伏其婇以刀刺充

其頸將斬之時其婇白天皇曰
莫殺吾身有應白事即歌曰
麻岐年久能（地名巻向）比志呂乃美夜波（日代の宮）
（しろは領れの約日領外る奢とも云ふ義なり）阿佐比能比傳流美夜
（紀日の出ぬき照る意とも云ふ也）（ひのいでく）
の美うて刈日也倍の中の清く刈無し）由布比能比
賀気流美夜（夕日の出ぬく新宮と云ふ義なり）
（け）の金歌（元好き歌より合めて比加気
流といへり比賀の賀とも清て刈て光江る
と云ふ也紀日夕日の出ぬく清く清く清く清く清く清く）多気能

泥能。泥陀流美夜。竹の根足宮也。竹乃根の如く垂り足る宮なり。

許能泥能。木の根の也是も如くときくへし。泥婆布美夜。木の根の如く根這延ふまて。上根足は異へし。従言也。這延る綴く也。

夜本尓余志。やすまし弥栄也。よしは吉也。

伊岐豆岐能美夜。いつは厳て築の宮也。

麻紀佐久。志木咲くて檜也。つくろ檜榑なり。

比能美加度。檜もてつくれる御門と云義なり。

尓比那閉夜尓。新嘗為也。

淤斐陀豆流。生立る也。

毛毛陀流都紀賀延波。百足槻の枝也。

本都延波阿米袁淤弊理。本つ枝は上つ枝也。上つ枝は天を覆へり。おへりは覆へりの略。天を覆へりなり。

那加都延波阿豆麻袁淤弊理。中つ枝は東を覆へりなり。

志豆延波比那袁淤弊理。しつ枝は下つ枝也。下枝は鄙を覆へり也。鄙をと云へり。比は西の方と云義。是は比なといひし。東の方に対して時をもや何也さる時そ。ひなの名義は日根と云と観念く日並と云義。まおもて従なくして

本都延能延能宇良婆波。上つ枝のうら葉也。うらはうれなり。あの御中てつかつる諷し。こいうるうちこところをとりふられ枝の末と云義也。

那加都延尓淤知布良婆閉。中つ枝に落ふらはへ。中つ枝よりあるまて落。

落ち椒の場のことをしいひつめたる也 那加枝延能延能宇良婆波
中枝のうらはたる也 斯毛枝延介漑知布良婆閇 中枝のうれ
うらはかつ枝 斯豆延能延能宇良婆波 下枝のうら
ふかき遠也 阿理岐奴能 ありきぬのぬくとこと也 三重とつ
ぬいたる也 美幣能古賀 ここもの皮なてはのうら也 佐々賀世流 榊け
ぬ也 美豆多麻宇岐介宇 つゆたまうきさくうやといふ也 美那支良 水底落
ぬし貝也 漑知那豆佐比 蔦さひ

せさひ也 そあひと云義也 そあを（さと行めぐせしとも）（元）
ハ外ち落て ふ落と云義也 あひ介也 椒の場の落ちこの
ちを元の落ち落し由 さく義なつく落と云義也 美那詩表呂 詩表呂
介詩斯母 岩石苔なと云義なり 石をろと行也
ろくさ 蕨の芽 てといふ所 蕨の芽をとろ云也 白こを
さきをいふ 神武 毎ハ未しもりて 咲より未しもとろ
義也 阿夜介加志古志 古 陰と 光日 市子と 傳なりし也 詩登能加多理碁登母
詩表婆 けるもと よいろ

今大后歌其歌曰。

夜麻登能詩能多気知今（大和の氏言ふ所也）古陀
加流。伊知能知和加佐今比那閑夜今漑
斐陀豆流。波毘呂由和麻都婆岐（ゆゑくある事の月新嘗祭に生ずる紫菫由知麻佐佐也つまさハ卿言ふ所也云也花ハ菫の花也もいろ由知麻のタ上盤姫白玉庭の清こそのまゝ
えらうをとゝはいふる月し）曽賀波能比呂理伊麻志（まゝ紫の
めく慶花也ヒロヨリ一し花の也ハ（ろ）の余勢よ合めてしろうとゝ也）曽能波邪能

豆理伊麻須。（三花のめく四いまます也）多加比加流比能美
古今登余美岐多豆麻和良勢（言ふ所の市ふる花市ふ所也）
（市河獻ら也ひと言ふ也（む）を略ふ）詩登能加多理碁登母詩袁
婆（婆の形）

即天皇歌曰。

乞々志紀能（柏梓大宮とつくる所也百敷ふ宮と言ふ義也百石筑と言ふ義也と伝ふ也）
（非也）漑富美夜比登波宇豆良登理

火宮人ハ鶴取と云事也と旧説ハいへれと。鶴取とてハ家牧馬ノ
かゝ[illegible]ハ鶴取と云ふこゝろハ折合ふこゝろ歟也。指すなハ宇豆の豆の
豆也。豆ハ豆ハ宇受良ハ冠の
繁花也。らハ給ふて繁也。とも取と云事也。

比禮登理加
気豆

領巾取振て也上の繁花

麻那婆志良袁由
ふ男へて領巾取振てと云ふ

故阿用

まゆハらハ身を振ふる振と云事也。宮中の振也
由伎下ハ行違と云事也。ひえを（へ）と云てあく

と云

今波須受来

庭者ハ鶴ま
ちといふ也

宇受須麻理亨
豆

鶴まちハ花と云事也。鶴くまちハ振組と云事也。すまう
ハ相撲ノ在と云事也。一人の上と衆人の上とをあらそひて
まうと云ふ。（す）いまゝ馬ノ手也。はまゆ宇豆と者ハ誤也
上の宇受良と代宇受須麻理とをあらそふ也

祁布母加母

今日も

佐賀豆久良斯

河貢進
なり

多加比加流比能美夜比登

言光日
宮人也

詩登
能加多理碁登母詩袁婆

仏の
なり

是豊樂之日亦春日之袁杼比賣

獻大御酒之時天皇歌曰

美那曽々久

指擎ふ孔そ〻く水そ〻くも（の）を（ゆの）袁
うつくしもたれハ臣也ばつれハ水そ〻く多
と云事なるも（う）を踏まて（を）とのけ也と云事也
臣とをゝきていふ字也ゝ。いふ物なるまゝ也

澈

美能袁登賣。（臣の女なり。）本陀理登良須毋本
陀理斗理（石ころ小石なるべき所なり。）（さるるもとろ小石なりて砂原なり。）加多
久斗良勢。（固く原まりもの。）（らと約めて云。）斯多賀多久
（下固くもの心の下固くもの。）夜賀多久斗良勢（孫固く原まりもの。）本陀理
斗良須古。（砂原まりすること。）

尒袁杼比賣獻歌其歌曰

夜須美斯志和賀淤富岐美能阿佐

斗尒波。（あさとは紅戸也。）伊余理陀多志。（い、冠句にて依立てとる義也。）
由布斗尒波。（夕戸なり。）伊余理陀多須。（上に同じ。）和岐
豆紀賀斯多能。伊多尒毋賀阿勢袁。（已き
つきは脇息也。人の脇よりもたれとる義也。
いるとは板なり。所謂袁のすもたれいろ。）

白髮大倭根子命代

（清寧天皇也。坐伊波礼之甕栗宮治天下
也。大長谷若建命之御子也。）

於是其姨飯豐王閔歡而令上
於宮故將治天下之間平群臣之
祖名志毘臣立于歌垣取其袁
祁命將婚之美人手其孃子者
菟田首等之女名大臭也令袁
祁命亦立歌垣於是志毘臣歌
曰

意富美夜能袁登袁波多傳（武袁登袁波の行いうるし）
る家よりをとこ出るかの女の門よりいでんす。汝も若も若も男
しらんとせば袁を取らくは面やせしまそ才とこの義なりやあむ
さらはまつらんとこの義なりて袁祁命は才市子まれはれ此
まつらんといふなりて千所にまつらんとて小俗は袁祁命
文書は立家柏と云を見て。柏たてのの河を万年よりのもの
てといひ古今は雲のたてものえんの男の此命なりてちとよ
たてといふ。あのたてはものやの男のたてい雲のの男の
せよ。（ち）の雲をかつたてと云。
たてても柏のやはよりたて
たてといふなり。

須美加多夫祁理（陽炎げりなり）
柏のは方陽炎げりと
袁祁命を喩へるなり

如此歌而乞其歌末之時袁祁

命歌曰

意富多久美（大立ノ也）袁遲那美詩曽須美

加多夫祁禮（をちかたの意ノ也）

意富岐美能詩々呂袁由良美（大ノ所ノ事ヲ定シ

ヤ。ゆらハゆるあの約（ミいもと）ゆらす約束ノ事ノ形。）

能斯婆加岐（ハ言ノ也。ばかり）伊理多々受阿理（入立ス有ル也。大ノ口ノ寛ニシテ広ク八手ノ柴垣ヲハ入立スルトコロヲ表シテ大ノ心ノ広ク慈ノ深キ人ノ様ヲ入立ルトコロ）

於是王子亦歌曰

斯本勢能（汝ノ也）那袁理袁美礼婆（なをり ハ陸奥）

（ミを異ニシテ名ヲ）

りとも金剛と云ふ）阿蘇毘久流（遊ビ ミ也）志毘賀

波多傳余。紬ハ縫ふ也。衣の領巾の也。初麻多

豆理美由。事云ふ也。孃子ハ志良比ニ伴ひ。かく詠るや也。此歌書紀ニハ武烈天皇の御製にして余の歌も不同。

余志毘臣愈怨歌曰。

意冨岐美能美古能志婆加岐夜布

士麻理。大君の御子の柴垣を結めてしまりといふ。

斯麻理母登本斯。いつる詞をさし

おしつゝるや也。かくハ本より能つゝるを領りとよみて柘の言を時にふ也。

岐禮年志婆加岐夜気年志婆加岐。切ても焼ても柴垣也。上の句を比して、さるありさまなるハ必ず柘切ても焼ても、王子の上を勝りていつるなし、やけむの詞にまハ孫ぞ誤る

ハ破むの誤

余王子亦歌曰。

意布袁余志。追魚よしと云ふ也。しハ助辞也。魚の字ハよと云ふ。うハふの誤なり。

斯毘都久阿麻。

[illegible]

胡本斯祁年 代余上王代代ハ[illegible]由孫[illegible]也由孫[illegible]也。

余斯賀阿礼婆宇良

我ハ由孫なれハ[illegible]

[illegible]の嬢子ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

志毘叔久志毘

[illegible]

[illegible]殺[illegible]

袁祁之石巣別命代

顯宗天皇也。坐近飛鳥宮治天下也。

市邊押磐王之御子也。

天皇求其父市邊王之御骨

時在淡海國賤老媼參出白

王子御骨所埋者專吾能知

亦以其御歯可知中畧故還上坐

而召其老媼詣其不失見置知

其地以賜名号置目老媼仍召

入宮內敦廣慈賜故其老媼所

住屋者。近作宮邊。毎日必召。故
鐸懸大殿戸。欲召其光媼之時
必引鳴其鐸。仍御歌其歌曰
阿佐遅波良（國茅原也）袁陀仍袁須疑（豆小谷也）
（ハヽそね）
毛々豆多布。（百傳也）
母。（ぬてハめりさくの鳴。ぬてハ鶯うてとも鳥形也。（ら）ハ（ぬ）
の金鈴と合めて。ぬてとも。（ぬ）ハ玉也。ゆゆくハゆりあくのりあ
を（ら）と約めてゆらくとも。
（ぐ）ハ玉ゝの付と云ふ也。）
奴豆由良久
流岐来久良斯母。（置目也）

也。置目の名前ハ上の文にて明かなる。ごハ高中の高なる。
茅原ハ小谷をとて。なと。ハ。ハ。の歌の詞ハ淮之名なり。
袁陀山祇のさまなり。袁須ハ。陀ハ小谷をとて。ハ。ハ。
ハ。ハ。なる。高の引ものれ。百傳ものの物傳也。紀ものも
ゆらくも。
よとなり。

於是置目老媼白僕甚耆老欲
退本國故隨白退時天皇見送
歌曰
意岐来母夜（紀ハハそきあ
もよとなり。）阿布美能淤岐来

（や）八尋殿のやうに一人を初の義也。（よ）八尋殿のやうに
より二人を四の義也。よそ近に宣旨と二人を為なり。阿須用理
波（翌日より）美夜麻賀久理豆美延受加
毋阿良年。陽山伝て不見ともをもひて
なれをしこたまふなり

一之巻夜久毛多都之神御歌より此所製と
八古事記まことの事を集る也　之巻より
以下八書紀まことの所也記紀共にまことの
天同のことを挙るいろ

帝国図書館

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan